

# 林 ただまさ

## 議会だより

人と人との絆・支え合いを大切に！

ホームページ「林ただまさ通信」 \* あなたの声をお寄せ下さい

No. 43 令和元年 10月1日

発行 林 ただまさ

住所 廿日市市地御前 3-13-3

電話 0829-36-1307

携帯電話 090-3376-9918

Email hayashi-tada@hi.enjoy.ne.jp

林ただまさ街づくり Blog

<http://mitsukosan.blog57.fc2.com/>

(議会、活動状況を逐次掲載)

### 《廿日市市議会》

#### 令和元年9月定例会

(9月10日～9月27日)

議案 38件(内認定15件)、報告3件、意見書1件、所管事務調査

#### 私の一般質問(9月11日)

##### 1. 宮島水族館の運営

(質問) 林 ただまさ

宮島水族館は「いやしとふれあい」をコンセプトに平成23年にリニューアルし、最初の2年間は入館者が60万人を越えていたが、3年目から50万人を切るレベルになっている。この度、入館者の減少に歯止めをかけるため、生き物との様々なふれあいができる新展示施設を整備しようとしている。

また、宮島口にある市営駐車場も今後宮島水族館の管理から離れ、毎年約3千500万円の収益が無くなり、その分基金の取り崩しとなる。

これらを踏まえ、宮島水族館の今後の運営のあり方について市の考え方を問う。

##### (答弁) 棚田 環境産業部長

経営面に関しては、今後3千500万円の市営駐車場の収益はなくなる見込みである。しかし、現水族館の建設の際に借り入れた合併特例債の償還が、令和3年度に終わるため、令和4年度以降、年間1億1千万円が管理運営費に充当できるようになり、経営状況は大きく改善する。

新展示施設の整備について、今年度は設計業務を約2千500万円で、令和2年度には整備工事を約4億円で計画しており、宮島水族館の新たな魅力を創出すること、入館者を増やしていきたい。

(再質問)で、新展示施設により動線が長くなりお客もスタッフも大変で、既存の施設の活用を提案し、動線の長さは検討との答弁

##### 2. フードバレーはつかいちフロジユクトの連携

(質問) 林 ただまさ

①地産地消推進事業では、ニーズに適応した生産者と実需者をつなぐための効果的な中間流通システムの構築を図るとともに地産地消を積極的に推進している実需者を地産地消応援店として

情報発信することで、地元農林水産物の取引を盛んにし、生産量の増大に繋げたいとあったが、その後の進捗はどうか。

②フードバレーはつかいち創出事業では、研究会を立ち上げ、平成29年度はターゲット、コンセプト、基本デザインを決定・作成し、平成30年度は新商品開発や既存商品の磨き上げを行い、東京圏での展示、商談会への出展を予定して6次産業化の促進と事業者の販売力の強化に繋げたいとあったが、その成果および今後の展開はどうか。

③その上で、フードバレーはつかいちプロジェクトの取り組みで新たな食産業のネットワーク形成を目指すとなっているが、その成果はどうか。

##### (答弁) 棚田 環境産業部長

①地元産品の中間流通システムを平成29年にJA産直市を拠点として構築しているが、小規模の実需者には利用しにくい課題があった。来年新たに整備されるJA産直市において課題を整理し、有効に機能する仕組みを作っていくとともに、このシステム等

を利用し、積極的に地産地消に取り組む飲食店を「地産地消宣言店」として広くPRすることで、地元農産物の地産地消に対する市民の意識を高めていきたい。

② この研究会では、平成30年度には、専門家からアドバイスをいただいたきながら、新商品開発や既存商品の磨き上げを行い、最終的に6事業者による8つの商品が誕生した。これらの商品を、東京や広島で開催された展示・商談会へ出品したほか、銀座にあるT A U等で、設定したターゲットにどのように評価されるかなどを把握するための販売を行った。

今後は、商品数を増やししながら、常設の販売場所を確保し、地域ブランドとしての認知度を高めることで、販路の開拓を進める。

③ 今後もJ A等と連携を図りながら、飲食店、宿泊事業者などの実需者と生産者を結びつけ、食産業のネットワークを形成するため、一つ一つの成功モデルを作っていく。

(再質問)で、新商品については、廿日市市に来られる観光客に受け入れられるものを目指すべき

と提案し、今後検討との答弁)

### 3. 廿日市市地域医療拠点等整備事業のJ A産直市の取扱

(質問) 林 ただまさ

現在の1.5倍の広さでスーパーマーケット機能をあわせもつJ A産直市の今後の整備スケジュール、営業時間、品揃え等はどうなるのか。

(答弁) 棚田 環境産業部長

今年度内に産直市の建設工事を完成させ、利用者の利便性を損ねないように可能な限り早期の営業開始を目標に、施設の実施設計に入っている。営業時間は、現在の9時から15時までを、地域の要望を受け時間の変更を検討。また、地域住民のニーズにあった品揃えができるよう調整している。今後も地域住民の利便性と生産者の出荷意欲が、上手く両立するよう、市としてもできる限りの支援を行っていく。

### 《川本たつしさんと対談》

(食産業のネットワーク化)

林

川本さんは、福祉、教育、子育て

てを重点施策に、その財源確保のため、飲食の年間売り上げを更に110億円伸ばすことで雇用も生まれると主張しています。

川本

確かに財源確保のため、行財政改革、観光産業活性化、特に飲食を伸ばし雇用の確保が必要です。

林

この度の一般質問は、宮島水族館、食産業のネットワーク化、J A産直市に関するもので観光産業の飲食拡充にも繋がります。

川本

食産業のネットワークの土台となるJ A産直市は生産者と実需者を繋ぐ中間流通機能があり、地元の方にとっても生鮮もの等の買物施設として重要なものです。

林

今回地域医療拠点整備に伴い、J A産直市は現在より規模、機能とも拡充され、地域住民の利便性と生産者の出荷意欲が、上手く両立するものと期待しています。更に、このことが、川本さんが主張されている飲食を伸ばすことにも繋がるものと思われれます。



後記

眞野市長が6月定例会では後継指名されなかったが、9月定例会で川本氏でない方を後継指名。その上で、私は、次期市長には行政経験、人生経験とも豊富な川本元副市長が最適任者だと確信。告示まで後わずかですが、皆さんの幅広いご支援をお願いします。

